

議 事 録	
会議の名称	令和４年度 第１回 愛荘町総合教育会議
開催日時	令和４年６月２０日（月）午後２時００分～午後３時２５分
開催場所	秦荘庁舎２階 大会議室
出席者	【構成員】７名 町長 有村 国知、 副町長 中西 功、教育長 徳田 寿 教育長職務代理者 森 秀昭 教育委員 松浦 延代、中村 由香里、黒川 泰守 【事務局】９名 政策監（総務） 生駒 秀嘉 政策監（福祉） 森 まゆみ 教育次長 上林 市治 学校教育担当課長 山川 剛 生涯学習課課長 陌間 秀介 図書館館長 三浦 寛二 歴史博物館館長 下村 今日子 給食センター所長 阪本 崇 教育振興課係長 久保 泰代 【傍聴者】０名
議事日程	協議・報告事項 ・愛荘町における不登校対策・支援について 教育振興課 学校教育担当 山川課長
議事録作成者	教育振興課 久保 泰代
上林次長	午後２時００分開会 皆さんこんにちは。 定刻になりましたので、ただいまから令和４年度第１回の愛荘町教育総合会議を開催いたします。 はじめに有村町長からごあいさつをお願いいたします。
有村町長	みなさん、こんにちは。本日は令和４年度第１回愛荘町総合教育会議にご出席をいただきましてありがとうございます。 特に教育委員の皆様方には日頃から本町の教育行政に対しまして、ご支援・ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。 この３月から黒川さんが新たにメンバーとしてお入りいただき、経営者としてまた地域のＰＴＡ、また子育て中のお父様ということも含めて地域に根を張った視点からのご発信ということでお力添えをいただけること心強く思っておりますどうぞよろしくお願い申し上げます。 また当町におきましてもそれぞれの部局で新たなセクションについてくださった方々も今日一緒にございます。 みんなで力を合わせて愛荘町の教育、子育て環境をより充実させていく

上林次長	ということに全力を尽くしていきたいなというように思っております。 私は前回までのこの４年間一期目を務めさせていただきまして、主に二つを教育にしっかり求めていきたいということをずっと申し上げて参りました。 その一つ目は公益に資する生き方をたたえようということ。そしてもう１点が生き物のスイッチをしっかりと入れていこうということこの二つに内包されることをいろいろと申し上げてきたかというようにも思います。 公益に資するということは、それぞれ一人一人の人生は大変大事なものでございますけれどもお互いがその主張とか権利とかいうことを発していった先にはなかなか難しいことになってくるイコールどこかで折り合いをつけながら、また公益のために汗をかいてくださってる方々に対しては本当に感謝の念を述べられるというような世相社会ということを目下と作っていききたいというのがこの思いでございます。 生き物のスイッチをしっかりと入れていくということは、飯を食べる人間をいかにつくっていくのかと、いかにふやしていくのかということに尽きるというように思います。 そして自分の命は最終的に自分で守り切るんだという覚悟を早いうちから持っていくというこういう生き物としてのスイッチを入れていこうというのがこれらに入るものだと私は考えて参りました。 引き続き、この２点ということを私は柱として、教育はもちろん徳田教育長にお力を全面的に賜りながらでございますが、町行政にあたっていこうというふうに思っておりますので、どうかよろしくご指導を賜りたいと存じております。 さて、この総合教育会議は、町当局と教育委員会とが愛荘町の教育について議論を深め、同じ方向性のもと連携して確かな一歩を進めていく場と認識しております。 本日協議いただくことになっております不登校については、文部科学省が２０２１年１０月に発表した「令和２年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、小・中学校の不登校の児童生徒数は１９万６１２７人と過去最多を記録し、本町でも５月の報告では１ヶ月に７日以上欠席している児童生徒が２１名おり、支援の在り方について日々検討を重ねていただいているところです。 皆様におかれましてはこのような議題について協議いただきながら、今後とも教育委員会と共通認識をもちお互いに連携して取り組んでまいりたいと存じますので、皆様からの活発なご意見を賜りますようお願い申し上げます。 ありがとうございました。
------	--

	それでは、本年度第1回の会議でもございますので、次第の2出席者の自己紹介を構成員・事務局名簿によりまして順次お願いいたします。 —順次、自己紹介—
上林次長	ありがとうございました。それでは会議の方に移りたいと思いますが、その前に昨年度の総合教育会議では貴重な意見をいただきました。教育委員会事務局では出された意見をうけとめ令和4年度愛荘町教育行政に反映するよう努めております。 資料「愛荘町教育行政方針」をご覧ください。 —資料「愛荘町教育行政方針」について説明— それでは会議の運営につきましては、愛荘町総合教育会議設置要綱に基づいて進めてまいりたいと思います。 早速ではございますが、設置要綱第4条によりまして、町長が議長になることから、会議の進行を有村町長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
議長（有村町長）	それでは設置要綱に基づいて、議長を務めさせていただきたいと思いますのでご協力のほど、よろしくお願いいたします。 次第の3 議題の協議事項、「愛荘町における不登校対策・支援について」にかかる意見交換です。教育振興課 山川学校教育担当課長より説明をしていただきます。よろしくお願いします。
山川学校担当課長 森政策監	「愛荘町における不登校対策・支援について」・・・資料により説明
議長（有村町長）	ありがとうございました。 それでは皆様からのご意見を頂戴したいと思います。
森委員	不登校の問題は、現役の時から現場だけでなくご家庭も大変苦労されていると感じていました。また内容的にも物理的にも厳しくなっていると思っています。 私が教師になった時はまだ不登校の子どもというのは比較的少なく、考えてみると自由奔放にやっていたというような思いがありました。ところが年数がたつにつれ当初都会の話のような話が田舎に勤めていても出てきて、それがより現実的になってくるというようなことがあり、最

後の方には私の勤めている学校でも数人の学校に来にくい児童がおりました。

これは先ほどの話にもありましたように原因はいろいろあり、子どもは学校に行きたいと思うけれども、なかなか出られない。それは親の方が送り出しや、学校へ行くという気持ちになっていない家庭があります。私が教務主任の時に修学旅行に行く朝一人の子がなくて、担任はどうしようというふうになり学校からすぐに迎えに行きました。玄関は開くのですが中を見るとまだみんな寝ていました。「今日修学旅行なんだけどどうする？今みんな待ってるのけど」という話をしたら、「もう行ってもらって、今更本人もいけないので行って」ということで、お父さんもお母さんも布団から起きてきてそのままで結局1人その子だけ修学旅行に行けなかったという非常に寂しいような話がありました。

そこにはそのお家の方が子どもを育てるという思いや繋がるものがなく学校としてはいろいろ話をしたのですが難しかったということがあります。他にもいろんな事情があるのですが、僕が感じたのは先ほど課長の説明にあったように、学校恐怖症から登校拒否という過程があって今の不登校になってますが、いまだにある程度年代の人は、登校拒否という言葉をよく使われます。子育てから離れて直接関係がないので、登校拒否という言葉だけが残ってるのかなということはあるんですが、やはりその方の思いの中には登校拒否は悪い、子どもが怠けとるというようなニュアンスが言葉の話の中で出てきます。だからその家庭においては、保護者の方はいろいろ考えておられるのですがおじいちゃんおばあちゃんの年代層の方は悪いものだそこから離れきれません。だから川久保の保愛館でフレンズをやっていたときも、毎日子どもが何人きてる？と指導の先生と話をしたり、子どもたちと少し話をして、おつき合いさしていただいたんですけども、その中でやはり「学校には行きたいけれども行けない」という話がありました。当初よく言われたのは玄関まで行って玄関出られないというこのお子さんが非常に多かったように聞いておりますので、物理的なものと心理的なものとがまざり合ってだんだん自分が余計に行けなくなってるのではないかなということも感じていました。

ここで魅力ある学校づくり、魅力あるとはどういうものなのかという事を教師同士で学校の中で話したことがあるのですが、こんなことやったら楽しいなという物理的な楽しさと、その子が来てここならみんなと話もできる友だちもいる。このクラスならじっとしてもいいと思えるようなクラスを自分で実際に作り上げていけるように、我々はどうするかという話をよくしたことがありますが、なかなかそう一朝一夕に変わるものはなかったということを思ってます。

いろんな形の不登校がどんどん増え、愛荘町の場合も中学校に行ってか

	ら不登校になったという子がいるというのを聞くことがあります。小学校の場合は何でもしゃべれた。そして先生に甘えられた。それが中学校行くと、だんだんと大人の世界に入っていくので、その自分の気持ちと自分の思いがそれについていけない。つまり体は成長していくけれども心的なかなか成長できないという部分があって、大変苦労した子どもさんも見てきました。 昔はそういうようなことがあまりなくて単純な中で生きていたのかなと思います。自分自身の子どもの時を考えてみても、学校へ行きたくないなあっていうことをあんまり考えなくてもよかったのか、宿題忘れたどうしようというだけで何か終わってきたっていうか、終わらしてしまったけれども、今の子どもたちは生活してる全般の中においてやっぱり心的プレッシャーというのは非常に多いものがあるのではないかなということを感じています。その奥にはいわゆる SNS であるとかさまざまな誹謗中傷等、面と向かって言えない。だけど人に対して匿名ならばいえるっていうその部分が非常に大きく影響しているのではないかなということを感じているような状態でございます。
議長（有村町長）	ありがとうございました。経験を背景とした今までの経過からおっしゃっていただいて、全般としてその子どもたちの心理的な、いろんなハードルやストレスも今日的にあるんだなということをお話しいただきました。それでは、松浦委員お願いします。
松浦委員	不登校ということはなかなか難しい問題で、私の周りにもそういうお子さんがいらっしゃる方がおられて、親の愚痴というか、お話をこっちから聞いていくのではなくて、ちょっと困った時にポロッと漏らされる話を聞いてあげるっていう立場でいるのですが、うちの学区ではないところで中学校の後半で、登校拒否になりかけられて高校受験を何とかそれでもクリアして、高校に入られたんですけれどもなかなか高校に行けない。でもその人は学力が乏しいわけではなくて、自分の目指す高校に行かれたんですけれども、でもやっぱり高校に登校することができない。親御さんからは夜昼逆転の生活が始まったり、髪を脱色して黄色く染めたりとかして本当に困ってるという本当に苦しいところを聞いたりすると胸が詰まる思いがするんですけどなかなか答えが出せない問題です。それでどこでお話をしてるかという、やはり学校の担任とかスクールカウンセラーとお話をされているのですが、なかなか改善されなくて困ってる。高校は学校行かなかつたら進級できない、留年になるしそうなったらもう退学をせざるをえないとかいうことを聞かされて本当に困っておられるのをつくづく大変だなあということを感じてたんですけれども。それで、どういうこと

議長（有村町長）	を毎日してるって言ったら、パソコンで世界の全然全く知らない人と、夜中にやりとりをしたりしてるということで、そういう世界の方に子どもさんが進められたらいいん違うということを私は第三者なのでそんないい加減なお話をしたりしたりすることもありました。 身近では、学年が変わってクラスが変わりまた担任がかわったりってことで、なかなか学校へ行けないっていう話も最近聞いたこともありまして、やはり学校の存在、先生の存在、周りが同的に動いて、その子を理解してあげないとなかなか毎日学校へ行くのが大変だなと思うこともあり、でも不登校かっていうとそうではなくて、何とか親に連れて行ってもらったりして、1日を過ごすで、行ってしまったら楽しくやってみたいでも次の日になると行きたくないっていうことで、何かその繰り返しで困ってる辛いわっていう話も聞きます。 また保育園児のことで、何かやっぱり保育園でも、小さな子どもが担任が変わったりクラスが変わると、行きたくないって言って泣けてしまうっていうことも聞いて、本当に周り友達先生の力がやっぱり必要だなということと思っています。 周りのもの、完全に接することのない人たちが、どうしたらカバーできるかという、なかなか親御さんの立場になってみないとわからないし、その親御さんの気持ちをどうやって、和らげてあげようっていうことなんですけど、ただ、困ったこと、愚痴を聞いてやって、やるしかないなということしか私ができないっていうこともあります。 先ほど登校拒否という言葉をおっしゃいましたが、悪い言葉の例みたいになっているんですけど、長期休暇、ゴールデンウィークがあって、次仕事に行く時にもう子供の登校拒否の気分がわかるわってついつい言ってしまう方、私も含めてそう思うときもあるんですけどもやっぱり登校拒否っていうことはあんまりよくないんですけども、負の言葉だなあと思って、あまりいいように簡単に使ってはいけないなということをつくづく思っています。 不登校っていうのはなかなか難しい問題で、その子その子一人一人の理由や何か事情があって、最後に答えを出せるかっていうとなかなか出せないところがあって、辛いところもあるんですけども、それを受けとめる周り、生活環境も含めて、周りが広い心で、受け入れてあげないとなかなか改善はされないということをつくづく感じています。 このような実情があるっていうことだけをお話しさせていただきました。 松浦委員様ありがとうございます。お知り合いの方のお子様、その苦しみということも教えをいただきました。いろんな方の支援というところを
----------	--

黒川委員	力が必要というところもおっしゃっていただきましたし、またPCとか踏まえて、いろんな方との繋がりにていうことを持たれるというようなところで、希望を持ちながらも、やはりそれに対する答えがなかなかない中で、広い心を持ちながら周りが受けることを受けとめていくってということも大事だということを触れいただいて大変ありがとうございます。 それでは黒川委員よろしくお願いします。 失礼いたします。この多様化っていうのも私はあんまり知らなくてというか先ほども言われたように、私たちの世代は登校拒否だったのですが今は不登校っていう形になってきて、やはり窮屈な社会という人が繊細になりすぎて余計そういうことが起こってるのかなと思いますし、やはりそれを煽るメディアとか、テレビとか携帯の普及で、子どもたちもそうかなと思って余計そういうふうになっていくような気がします。昔は先生も言ってくださったように学校が楽しかったとかそれなりにごまかされてはないですけど、楽しくて学校行ってたっていう記憶があるんですけど、今はちょっとどういう学校状況になってるかがよくわからないので、子どもはちゃんと行って帰ってきて楽しいと言って帰っては来てるんですけども、昔とは違う楽しさなのかなというのは実感で思います。 また、適応指導教室はすごくいいと思います。ここら辺でも最近テレビで放送されていたのですが近江八幡で対面恐怖症の女の子がケーキ屋さんをしてお母さんがサポートしたり、箱根の方で不登校の男の子がコーヒーが好きで、お母さんのサポートで行列ができるすごいレアなコーヒーを月に何回か出してるとか、やりたいことを伸ばすとか等、親はやっぱり学校行かせたいとか、大学行っていいところに就職させたいとか、そういう親のエゴも大事ですけどやっぱりサポートしてあげるっていうのも、大事なかなと思うので、私もあんまりガミガミ言わずにやりたいことをうまくサポートできるような親になっていきたいと思います。
議長（有村町長）	黒川様、ありがとうございます。 なかなかいろいろな思いを持ってることを、この親御さんは形にしてあげられたっていうケースですからそういうこともみんなで知識として知って広めていければ、また受け皿というところ、また社会の受けとめ方というの、より良くなっていくのかなと思いながら拝聴させていただきましてありがとうございます。 中村委員様よろしくお願いします。
中村委員	子どもが学校に行きたくないあというのは、学校の中で何かであったり、家の中で何かあったりと、そういう自分の身近なところから始まるの

議長（有村町長）	かなと思うんですけど、親として子育ても初心者で自信もない中で自分たちの生活もしなくちゃいけない。自分たち親の生活が大事という中で子育てをしていくので、見てるようで見えてない部分がたくさんあると思います。自分に置き換えて考えても、子どもが学校へ行きたくない、今日は休みたいなあっていう時がよくあり、そんな時どうしてたかなあと思うと、昔は朝の集団登校時に上級生の子が下級生のうちへ迎えに来てくれたりとかするんですね。毎日のことなんで、何となくこの家は遅いとか、この家の子は早く来るとか、そういうのがあって遅い家の子のところにはちょっと早めにみんなで迎えに行こうとか、なんかそういう助け合いというのがあって、私もそれで助けてもらったこともたくさんあったし、誰々ちゃんとかちょっと朝いつも遅いねとか、じゃちょっとみんなで行ってあげようとかいうことをしてたなあっていうのがあってそれだけでも子どもの朝の気持ちが変わるんじゃないかなと思いますけど、でも今はそういうことはどっちかいうとしちゃいけないような感じがあってなかなか難しいのかなとも思います。 その他私は、今日はこんな給食やでとか言っただけで食べ物でつったりとか、あと今日は体育があるし行ったらみたいなそういう授業でつたりとかして、小学校の時は何とかして学校に行ってもらおうっていうふうに、いろんな方法を使っていたような気がします。 中学校に行くと、本人もなぜ行きたくないのかがわからないっていう時があるみたいで、そうなるとこちらはどう対処していいかわからない。無理やりは駄目だ。というか休ませたらいつまでも休んでしまう子どもがいますし、そうすると終わりが見えなくなってきて、先生とかに相談しても様子を見ましょうという言葉で、本当に出口が見えなくなってしまったという経験もあるので、見守るっていう度合いというか何かそういう答えがわからないのがすごく苦しいのではないのかなと思います。 学校はそれでも先生とか助けてくれる人がいるんですけど、子どもが成人した後まだ家にいるときのおうちの方の話を聞くと、何のアドバイスもこっちはできない。話聞くことしかできないし、どこに助けを求めたらよいのかなというそのお家の辛さとかがあるので終わりがいい問題なのかなあと思ひまして、なかなか難しいテーマだなと思います。 中村委員ありがとうございました。 いろんな局面を経てくださいってたというところのお話を触れてくださいました。ありがとうございます。 その見守っていきこうというところなかなか出口が見えないところの苦しさというところがあるということが一般的にも多いんだろうなというふうにも思います。今の4名の教育委員様からお話も賜りました。
----------	--

山川課長	あと実務の部分部分含めて、こんな取り組みが行われています等ありましたら発言をお願いします。 中学校では別室登校といいまして学校の授業がある日に別室を用意して担当教員がいて、そこに子どもたちが何人か来るということで、学校になれるんじゃないんですけどそういうことをしてます。 それでそこで勉強しまして、進路に向けて教室では勉強できないんですけどそこで勉強できるということを具体的にしております。 そこで何人か特に中三の生徒はそのまま高校に進学したというのがあります。この高校のいろんな情報がありますので、いろんな選択肢の中で選べるような進路選択をしています。そういうことが、特に具体的にあるかなというふうに思っております。 先ほど申しました放課後登校、学校は登校できないのですが、放課後なら来られるという子は親御さんとも協力をしながらなんですけど部活が終わった6時から7時までその間に登校していただいて、一緒に担任と勉強したり、進路の話をしたりということで、毎日学校には来ようということでそういうことをしながら対応をしています。 だから、不登校といってもいろいろ、そういう多面的な対応をしているのが学校でございます。以上です。
教育長	いろいろご意見いただいてありがとうございます。 後程、町長副町長のお考えもお聞かせいただきたいんですけども、不登校の要因っていうのは本当にいろんな書物読んでみても、特定をしようと頑張ってもあんまり意味がないということだそうです。 一番端的な例をちょっと紹介させていただきますと、例えばその中学校1年生で不登校になった子どもさんが、何が要因かということで学校に聞きますと、1番目が家庭の状況。2番目がいじめを除く友人関係3番目が学業不振というふうな答えが学校から返ってきます。それで、本人に、中学2年になってから1年経ってから聞きますと、1番が体の不調、2番目は勉強がわからない。3番目が先生との関係というふうな要因と答えています。 また、その子供さんが5年後にあのときの、一体原因は何だったと思うと聞きますと、1番が友人との関係。2番が生活リズムの乱れ。3番は勉強がわからないということだそうですので、本当にこれだっていう要因を一生懸命探し当ててくることに頑張ってもあんまり意味がないということではないかというふうに思います。それでは何をしなければいけないかというと、その子が困っているわけですからその困り感とか、或いは辛さとかにまずは耳を傾けてどんなことをしてあげたらその子が楽になるか何とか

副町長	探り出すそこではないかというふうに思います。 冒頭に町長もおっしゃいましたように今の子どもって、そんなに 60 年前の私らと何もその人間の遺伝子とかがそんなに変わるわけではないと思うのですが、ただ町長がおっしゃるように生き物としてもスイッチを入れるとか自分で飯を食べるとか、そういうような良い意味でのたくましさとか、或いはふてぶてしさだとか図々しいとか、そういうものは大分そのいろんな社会情勢の中で減ってきてる。その部分をちょっと自分へのプレッシャーとかをまともに受けがちで流せない。ということでストレスに感じてしまうということはやっぱりあるのかなというふうに思います。 私も兄弟で不登校の子どもさんがいて、本当に心を痛めたことがあるんですが、そのときに本当に思ったのは何とか学力、これは非常に狭い意味の学力ですけれども、進学する学力があると次の世界が広がってくる。でも、もう 1 人の子どもさんはもう早くから不登校になって、先生方も一生懸命来てくれたんですが、それも回復できなくてその学力の部分のすべもなかなかなかったというので、もう非常に厳しい状況になってしまった。やっぱり学校へ行ってなくても、何か人生のよいモデルに出会うとか、或いは夢とか、先ほどもおっしゃってましたけども、この世界であれば自分行けるみたいなものに出会うとか、そういうのが何か大事なかなというふうな気がしています。 そういう意味では学び直しとか出会いとか、ちょっと時間がずれても、そういう受け皿っていうのはやっぱりなくちゃいけないのかなということを今つくづく思っています。 先ほど担当課長が一つ具体例を言いましたけども、やっぱりその ICT であれば何とかなる子どもさんもおられるし、校長 O B の室長の先生がちょっと声をかけることで、それなら 1 回フレンズ覗いてみますという親御さんもおられます。本当にいろんな引き出しを用意していくことが大事なかなというふうに思っています。 ぜひ町長や副長のご意見をお願いします。 今 4 名の教育委員の皆様、また教育長もお答えられたとおりということだとは思いますが、私は教育の専門家ではありませんけども思いますが、やはり家庭や学校がいかにその子どもさんたちにとっての居心地のいい場所になるか、なれるかっていうところなんじゃないかなというふうに思っておりまして、これまでから教育現場でもご苦労いただいとるところかと思いますが、やはり家庭を居心地のいい場所にするためにはその親へのフォローというところが大変大事だなというなことを、今教育委員の皆様からのお話でも感じましたし、学校を居心地のいい場所にするということについては、制度のご紹介もありましたけども、別室登校であ
-----	---

議長（有村町長）	るとか、放課後教室であるとか、そういったところへ行ってみようかなと思えるような場をいかにつくれるかっていうところが、大事なのかなというふうにも感じておりまして、そういったところのフォローができると、不登校に対する特効薬とはいかないかもしれないですけども、少しずつでも改善が図れるのかなというように感じた次第です。 副町長ありがとうございました。 私がお預かりする立場からすると、何かということだというふうに存じますけれどもやはりこの不登校になられるそのご本人でありご家族でありっていう方の総数をどうやって下げていくことができるのかなと、それが私町行政そして教育に携われる皆さんにとっての、大事な課題なんだというように思いますので、こういう本当に貴重な皆様のご意見、それぞれお忙しいお立場の方々が集っていただいておりますので、現場の先生方はもちろん大変使命感持って臨んでくださっていますけれども、どうやって少しでも、そういう方々が陥らないか、もしくはその初期のタイミングで、関与をどうやって持っていくかっていうスキルを上げるっていうところももしかしたら必要かもしれないというようなことは思っております。私としてもこのことを、一つのテーマとしてこれからも持ちたいなというふうには今日改めて感じたところでございます。 理由とか事象というのはあまり一つ一つ子細に見ていってもというのもそれも多様なものであるのということを教育長からもお話いただいて、年次年次の輪切りで見るとその原因っていうのも推移編成していくということでもございました。なるほどと思って拝聴しておりました。 その上でやっぱり、私たち大人が関与できるところ、すごく大事なところっていうのは、親とか大人がわくわくとして人生を生きているという背中をどれだけ総数として日本人が多く背中を見せられるかというところなんだというように思います。戦後 77 年目迎えますけれども、社会の構造っていうのが変わってきてその困難さの中で、みんなもがきながら毎日やってるんですけど、それでも命が続けられてるってこと感謝しながら、そしてよいバトンをつなごうという日本を構成する 1 人 1 人がちょっとずつでも増えれば、それが子供にとっての、なるほど、早く大人になってみたい社会に出てみたいなということに直結するのですから、私たちがそういう覚悟を持ってよい背中を子達に見せていく世代であり社会でありということを実践していくことが、私たち大人の責務なんだろうというふうに思いますので、生き物としてのそれが最も根幹でありテーマなのかなと思いますので、命ある私たちがそれを務めていきたいと思います。そのスターターの場が小さなものだとしても、そういうことを広げていくほかないと思いますので、この総合教育会議としては大変ありがたいご意見も配
----------	--

	置をさせていただきました。 ありがとうございます。 今回の会議は教育部門と町行政が両方ジョイントしながらという会議の位置付けのものと理解しておりますけれども、またちょっといろいろ進め方等々に関しても、もっといろいろご発言をいただきながら、事前にいただいというここポイントこうこうこうだとか、やりようももしかしたらあるかもしれないなど。会場後ろに控えてくださってるメンバーも町の実際に幹部のメンバーでもありますので、そういう点では実践を踏まえた視点を早いうちに入れ込んでおいていただいた方がせっかく会場にこうやって座ってくれてるので、この進め方等々を含めてですね、また良い会議に引き続きしていければなというふうに思っています。
上林次長	それでは大変ありがとうございました。 それぞれご意見拝聴いたしまして、また内部の方でもいろんな協議もしていきたいと思います。 それでは次回の日程でございますけれども、11月14日ということ第2回目の会議を開催させていただきたいと思いますので、またご都合ほどよろしく願いをいたします。 それでは教育長の方から終わりの挨拶をお願いいたします。
教育長	それでは閉会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。 本日は長時間にわたり「不登校問題」について、情報共有および意見交換を賜り誠に有り難うございました。 文部科学省の方では今年の2月に教育進化のための改革ビジョンというのを公表しております、その中でこれまでの学校において十分な教育や支援がと届かなかった子どもとして不登校の子どもをその一例として挙げております。そうした子どもたちにも十分な学習機会の保障を行わなければならないというふうに強く申しておるところですけれども、そのことを私どもも十分肝に銘じて進めていく必要があるなというふうに思っております。 不登校の子どもたちの困り感に寄り添いながら、いろんな引き出しを用意して支援をしていく。そしてその子どもたちが、社会において自立していける。そうした効果的な支援をいろいろ考えていきたいなというふうに思っております。そうしたことを踏まえましてどのような状況にある子どもであっても取り残さないで、寄り添いながら、人が輝き人が育つ、未来を拓く愛荘の教育をさらに充実させていきたいというふうに改めて思ったところでございます。 本日は本当に貴重なご意見を賜り、まことにありがとうございました。

上林次長	ありがとうございました。 以上で令和 4 年度第 1 回の愛荘町総合教育会議を終了したいと思います。 大変ご苦勞様でした。 午後 3 時 25 分 閉会
-------------	--